

## 「中間まとめ」に関する地域説明会 大石田会場の質疑応答の概要

< Q : 会場からの質問・意見

A : 検討委員会委員長、県教育次長、県高校改革推進室長の発言 >

Q : この検討委員会では、実際にいつごろ再編整備という想定はあるのか。

A : 検討委員会では、北村山地区の4校をどうするか、ということから始めると、議論が大変になり方向を見誤るのではないかということになり考えなかった。

まず、この北村山地区を考えた時に、生徒が少なくなっている現状、この地域が工業地帯、農業地帯であるという事情、地理的な関係などを考えた上で、この地域の高校はどのような人材の育成が求められているのかを考えた

次に、どのような高校の教育内容や活動が必要か。それから、いくつぐらいの高校の数か、ということで議論してきた。そうした検討の「中間まとめ」を実施し、地域の皆さんのさまざまな意見を聞いて、2月に答申することになっている。

今ある、北村山地区の4校をどうするのかということについては、検討委員会ではなく、教育委員会で考えることと思っている。

A : 「第5次山形県教育振興計画」いわゆる5教振の中で、平成17年度から26年までの生徒の減少などを踏まえ、高校の再編を進めている。

その中で、平成24年度から26年度の検討課題としているのが、北村山地区の再編である。高校を建設するには4・5年かかるので、今検討している。

Q : 現状として、東南村山地区方面に多くの子どもが進学して、北村山地区に進学するのは4割ぐらいとあったが、本当は地元の高校に入りたいけれども、東南村山地区の入れてもらえるところに入らなければならないという子どもがいる。

学力検査である程度の点数をとらないと、県立の高校に入れないが、そういう事情をどうとらえて、北村山地区の高校に進学する子どもたちと、東南村山地区の高校に進学する子どもたちの人数の把握をしているのか。全部を網羅したのではなく、アンケートは抽出ではないのか。

子どもたちのニーズとして、入りたいのと、入りたくとも入れない子どもたちが大勢いる。不景気で県立に入りたいが、私立に行かざるを得ないというような、そうした子どもたちについて、検討委員会で話し合ったのかを聞きたい。

A : 平成26年には、北村山地区では860人まで生徒数が減る。そのうち、地区内に進学するのが4割程度で、東南村山地区など他地区に5割以上進学してしまうと、400人程度しか残らない。他地区からの進学が200人程度で、それを含めても、500人から600人とすると、ここの実態としては14学級より少なくなるのではないかということが大きな問題と思っている。

この地区は北学区で、学区制に関するさまざまな意見もあったが、学区には触れな

いことにして検討してきた。

東南村山地区に進学したい生徒を止めるわけにもいかない。外に出ることを、グローバルと言っているが、本当は自分の地域のローカルも大切で、両方を身に付けるローカルな教育が求められている。東南村山地区に進学しても、意識はこの地区にあるというような教育が必要だと思っている。

中学校3年生の高校の選択理由で、部活動の割合が高くなっていた。入学して、部活動をしたい時に、クラス数が少ないと、片手ぐらいの数の部しかない。野球もバスケットボールも合唱もできないというのでは、生徒にとって幸福だろうか。また、高校の先生方にとって、自分の専門を教えるのが幸福である。自分の専門は生物だが、物理や体育を教えるのでは情熱があまり出なくなってしまうのではないか。専門を教えることは先生にとっても生徒にとっても幸福になる。そうすると、学年で200人程度の規模が必要ではないかと考えた。

普通高校は東南村山地区に進学しなくてもいいように進学の充実を図ってほしいとか、工業や農業をきちんと教育してほしい、ということがあった。そういうことは、答申の中に盛り込んでいかなければならないと思っている。

Q：県立高校は、ある程度の学力レベルがないと入学させない、そういうスタンスで考えているのか。

A：東南村山地区に進学する生徒は、地元の公立高校に進学するのが厳しく、高校の多い東南村山地区に進学するという生徒もいるが、逆に、自分の選んだ学校に進学するために東南村山地区へという2通りがあると思う。

公立高校は、その学校にとって入学させたいと思う生徒を、選抜して合否を決めている。しかし、定員を充足する受験生が集まらないような学校もある。定員を満たしていないのに、不合格者を出すのは難しい面があり、定員を満たさない学校であれば、希望する生徒はできるだけ入学させようという方針になっている。

私立高校もそれぞれの方針があると思う。その中で、こういう生徒がほしいということがあって、生徒も自分のやりたいこと、例えば、部活動を学校選択の視野に入れている生徒も多いのではないかと考えている。

Q：不景気が続く中、経済状況で私立高校には行けないが、入ることのできる県立高校もなく困ったという話がある。そういうことをどのように考えているのか。

A：子どもたちは、志望して山形市方面に進学している。学力面や部活動、大学に進学したいなど、さまざまな理由があると考えられる。

基本的には、その学校での学びに足る学力があれば、その学校に入学させるというのが、県立高校の入選の基本的な立場である。しかし、定員があるので、志願倍率を超えてしまえば、選抜しなければならない。

今春の本県の高校への進学率は98.8%で、100人のうち99人が進学している。そういうことを踏まえると、義務教育の中で関わっているようなことがある程度は理解

できる。難しいことはたくさんあるが、可能な限り受け入れる。

Q：どのような高校の配置が望ましいかについて、3校と2校が書いてある。3校の場合の例とあるが、進学指導を一層充実させた高校といえば、北村山地区では楯岡高校。多様な学びを通して自分を見つめ進路実現を図る高校といえば、総合学科の北村山高校。地域産業の担い手となる人材の育成といえば、東根工業高校や村山農業高校が浮かんでくる。具体的な学校名が出ると、差し障りがあるのでそうしているのか。

現状の高校でこうしたい、既存の学校の組み合わせで残すということなのか。それとも、既存の学校の学科、科目、教育課程など内容をリニューアルして新たな学校をつくるのか。そのあたりの捉え方が分からないので聞きたい。

A：既存の高校を考えないで、検討してきた。3校というのは、この地域の今後の人口推移を考えると3校ぐらいということになった。

4校を視察させてもらったが、どこも伝統があっていい学校と思った。普通科の高校、農業高校、工業高校、それから総合学科の高校と全部タイプが違うので、本当は全部残したい。本当に難しい問題だった。

これから、この案を具体的にどうするのかということになるが、それは検討委員会の検討領域外のことと思っている。これからは、県教育委員会が、建物の状況とか、交通の便とか、さまざまなことを踏まえて決めることと思う。

設置するものとしては、農業と工業、それから普通科の高校、そして総合学科のような学際的なもの。具体的ということがあったが、どこをどのようにという考え方は、検討委員会は持ってはいない。

Q：1学年約50人の中学校では、規模が小さく、活力がだんだん失われているような思いをしているので、高校は、どのくらいの規模だと活力がでて、活気ある活動ができるかと思っていた。

選択の幅も狭くなることなどを考えると、1学年200人から250人。何校ということの前に、何人ぐらいの高校ということが先のような気がする。それから、単一の学科を設置するのか、複合的な学科を設置して総合学科のようにするのかということがあるのではないか。

高校は元気ができる大きさというものがあると思っている。上山明新館高校は、普通科と農業科と商業科が一緒になった高校、新庄神室産業高校は、農業科と工業科が一緒になった高校で、前例があり多様な組み合わせが可能になると思うが、規模が小さいとさまざまな意味で勝負のできない、元気がない高校になってしまう気がする。

A：学年の人数についてはそのとおりだと思う。そこで、1校の1学年5・6学級ぐらいとすると、全体で14学級ということなので、3校程度と割り出した要因の1つになっている。

新庄神室産業高校を視察した際、農業はスパンが長く、1年かかり成果がでる。ところが工業は短期間の勝負という部分がある。その農業と工業の生徒が一緒になって

取組むのはすばらしいことだと聞いた。今は、そういうことも選択肢の1つとっており、学際的ということが今の1つの方向性だと思っている。

村山農業高校については、一般の人や、中学生に誤解があるのではないか。農業科は希望が少ないとあったが、おそらく、その内容を知らない。大学でも農学部にはあまり集まらず、名称を生物資源学科にしたら、集まってきたということがある。農業高校も、バイオテクノロジーの先端を扱っていて、たくさんの面白いことに取組んでいる。そういうことをPRしていけば、もっと増えるのではないかとと思っている。

新聞に、県立農業大学校と県内の農業高校6校が提携したとあったが、大変いいことである。どこの学校に入学したから進学の道が閉ざされたということが、今はなくなっており、医学部でさえ文系から入学ができる。そういう時代になっている。

高校の教育では、ベースをきちんと身に付け、夢を持たせ、さまざまな道があるということで取組んでいかなければならないと思っている。

意見があれば、第5回の検討委員会に反映させたいと思うので、よろしく願いたい。

以 上